

「あいさつ・声がけ・きっかけ作り」に関するアンケート 集計結果(抜粋)

調査対象 / 町会・青少年対策地区委員会・区立幼稚園PTA・区立小学校PTA・区立中学校PTA(計207団体)

回答数 / 103団体(49.8%)

問1	文京区青少年問題協議会で策定した「はじめの一步! (文京区青少年育成プラン)」は知っていますか。
	知っている 85 ・ 知らない 16

問2	プランの重点行動として「あいさつ・声がけ・きっかけ作り」を呼びかけていることを知っていますか。(問1で「知っている」と回答した場合のみ)
	知っている 77 ・ 知らない 8

問3	「あいさつ・声がけ」をきっかけに地域で顔の見える関係を形成することで、どのような効果を期待しますか。(項目より選択・複数回答可)	
	・ 青少年やその親にも、地域社会の一員である意識が定着すること	71
	・ 家庭(青少年の親など)と地域の輪が広がり、様々なサポート体制など相互の連携が強まること	66
	・ 青少年が犯罪や事件に巻き込まれないよう、地域の防犯体制が強化されること	64
	・ 青少年の健全育成に地域全体で取り組んでいく意識が定着すること	58
	・ 地域団体の諸活動が活性化すること	41
	・ 様々な立場の人との関わりにより、青少年が多くの体験や経験をすることができること	40
	・ 大人や青少年(社会全体)の規範意識が向上すること	32
	・ わからない	4
	・ その他	1

問4-1	今まで貴団体における諸活動の中で、大人・子どもに限らず、地域の中でのあいさつ・声かけに関し、気持ちよく思ったことがありましたか。	
気持ちよく思ったこと ある 77 ない 15		
それは具体的にどんなことか（上記で「ある」と回答した場合）		
地域で	交通安全週間等で、小学校の登校路指導中に「おはようございます」と元気な声で挨拶された時。	町会
	交通整理等で街角で旗振り。行き帰りの小学生に大声で挨拶された時。	町会
	町内の幼児がボール遊びをされていて私の宅地内にボールが入った時、渡して道路では危ないからやめる事と、きちんと「ありがとう」と礼を言うことを教えた。その幼児が成長して、会えば必ず挨拶してくれるので良かったと思う。外出の度に何時も心がけているが、立派な大人が挨拶を返してくれない事を淋しいと思う。	町会
	交通安全運動展開中、京華学園女子高の生徒から「おはようございます」をかけられ、世の中も捨てたものではない。	町会
	町内の納涼祭りで顔見知りになった子から、翌日「ありがとう」と言われた。	町会
	毎年、ラジオ体操を公園で行っている。10日間だが、その後街の中で顔を合わせると「こんにちは」とか「こんばんは」と親子で声をかけてくれる。	町会
	町の中で多くの子ども達と挨拶出来ると、自分の住んでいる町という感じがする。	町会
	行事に参加した方が「また何かの時はお手伝いしますから、声をかけて下さいね」と言ってくれたこと。	町会
	交通安全週間における活動において、子ども達への声かけ、挨拶に笑顔で返事が来ること。	町会
	スポーツ開放に長年携わっているが、その当時、小・中学生だった子どもが青年になって、外で出会った時に挨拶され、私の方が忘れていたのに、嬉しく思った。	町会
	小学校の通学路にあたる信号の所の店舗のご主人が、毎朝声かけしているのを見て、良いことだと思った。	町会
	夏休みのラジオ体操（近隣三町会合同）の時、こちらから先に「おはよう」と子ども達に声をかけると、二回目、三回目には子どもの方から「おはようございます」、またその親からも「お世話になります」と挨拶された。	町会
	近所の子ども達に声をか、親しみがわいて、また、困った事等を聞き出して、小さなことでも相談したりすること。	町会
	近所同士の付き合いが薄れる現代、町会行事（お祭り、盆踊り、もちつき大会等）を通じ、町内会の方々と挨拶出来るようになり、また、近隣町会合同の行事等でも挨拶の輪が広がった。	町会
	ふれあい広場開催などで児童と町の方々との交流が年数回あり、皆の親交の輪が広がり、楽しい町の雰囲気良くなっている。	町会
	小学校に通う途中にこちらから挨拶をしたら、始めは反応がなかったが、日が経つにつれて、子供から挨拶するようになって来た。	町会
	恥ずかしがる年齢の中高生が明るく挨拶してきたこと。	町会
	同じ社会に暮らしているという安心感。	町会
	交通安全運動等で町会員が交通整理をしている時、登校する児童が挨拶をして行くことが多いこと。	町会
	指ヶ谷小学校の顔見知りの児童が、下校時に、いつもは自分から「お帰り」の声をかけるが、その日は児童の方から挨拶され、色々な意味で安堵した。	町会
登園時、プールバッグを持った子ども達が「おはようございます」と挨拶したところ「今日は晴れて良かったね。いってらっしゃい」と言って頂き、子ども達はプールへの気持ちが高まり、楽しく幼稚園に向かった。	幼P	
子どもが一人で買い物などに出た時、後日、お店の人からその様子を聞いたり、また、出会った人に、いつ会って、どんな様子だったか教えてもらった時。	幼P	
登・降園時に商店街の方達が声をかけてくれるので、家族以外の人と挨拶する習慣が身につく、マナーも教えることができ、大変良かった。	幼P	

	当幼稚園では、毎朝ボランティアで保護者が周辺の環境整備（清掃）を行っている。その際、道行く人が「おはようございます」「いつも有り難うございます」「ご苦労様です」と声をかけてくれるのを、とても気持ち良く感じる。	幼P
	幼児は知らない人でも気軽に挨拶する。相手の方は知らない子どもでもニコニコ挨拶を返してくれるので、地域の子どもの目で見られていて安心できる。	幼P
	夏休み中、子ども達が早朝地域の掃除をしているが、近くを通る大人が「おはよう、ありがとう」と子ども達に声をかけてくれ、ありがたかった。子ども達も自然と挨拶を返していた。	小P
	登下校時等、地域の方々がよく声かけをしてくれる。地域の方と学校とでドジョウつかみ、もちつき等の行事を行う際、地域の方々、親、子どもが一体となり、子ども達には楽しい経験である。また、授業の中で地域の方々と話す機会もあり、子ども達はこの町に住んでいて幸せだと感じる。	小P
	目と目が合うこと、そして声をかけ合う事によって、人と人との関わりのきっかけが作れる。また、お互いの気持ちのやりとり、もっと声をかけた方が良い人に対して、深く話することも出来、気持ち良いと思う。	中P
	交通安全週間時には、ずいぶん生徒に声をかけてもらったようだ。	中P
	道で小学生の男の子に「こんにちは！」声をかけられ、それが嬉しくてボランティアやPTA活動に参加するきっかけになった。	中P
学校で	幼、小、中に訪問した際、子供達から元気の良い挨拶。	町会
	学校内で生徒が挨拶をしてくれる。（特に第十中）	地区対
	毎朝、園長先生が子ども達一人一人に「おはよう」と挨拶で出迎えてくれる。子ども達も楽しみに登園する。以前、公園を見守るおじさんが毎朝子ども達に「おはよう」と声をかけてくれ、何度か交わすうちに世間話もできるようになった。挨拶を交わすことにより、見守られているという安心感がある。	幼P
	学校行事の手伝い等で学校に行った時など、「こんにちは」と子ども達から挨拶されると気持ちが良いと思う。	小P
	PTA会合時に、校内で生徒が気軽に「おはようございます」等と挨拶してくれる時。	小P
	6月に体育館でマンドリンコンサートを開催。地域の方も大勢訪れ、その後コンサートの話題で色々な方と交流できた。開かれた学校でありたいと思う。	小P
	来校した際、子ども達が元気に明るく挨拶してくれたこと。	中P

問4-2	今まで貴団体における諸活動の中で、大人・子どもに限らず、地域の中でのあいさつ・声かけに関し、心配に思うことがありましたか。	
心配に思うこと ある 49 ない 30		
それは具体的にどんなことか（上記で「ある」と回答した場合）		
大人の状況	子ども達が元気に挨拶するにもかかわらず、大人がしっかりと取り合わなかった時。	町会
	挨拶出来ない人が大変多いと思う。交差点で車が来ないと、信号を無視して通る人が大変多い。	町会
	地域に住んでいても、地域の一員と思わぬ人間が、要らぬ反発心を持つこと。	町会
	バス、電車の中でも隣席へ座る時は声をかけ、先に下車する時も声をかける。コンビニに行っても必ず挨拶するので、店員も快く返事をしてくれて、和やかな雰囲気を作られる。このギスギスした社会を「和を以って貴しとなす」が出来たら犯罪も激減すると思う。先ず、親が実行して笑顔で暮らすべき。	町会
	町会行事などで、挨拶の出来ない親が多いように感じられる。	町会
	最近の事件によって、親が子どもに対し、知らない人と話さないよう教育しているように思える。地域の活動に参加しない親が増加しているためかもしれない。子どもの精神状態が安定していないというニュースを見て、大人も子供に対し、注意などコミュニケーションしづらくなっている。	町会
	犯罪の多い昨今、声をかけることは出来ない。	町会
	地域の中でも挨拶が少ない。人と人との信頼感が失われている。	町会
	諸事件が起こるので、特に男性とすれ違う時は、つい疑いの目で様子を窺ってしまい、子ども達を守る事が優先して挨拶とは遠い気持ちになり、後で申し訳ないと思うことがある。	幼P
	PTAの役員という立場である以上、役員の立場にある方だからという印象を持たれてしまうこともあった。声をかけられることによって、仕事を手伝わされるととってしまう方もあったようだ。活動に加わりたく、全ての方々が思っているわけではないので。	幼P
	子ども達が巻き込まれる様々な事件を耳にするたび、誰とでも挨拶したり、声かけされたりする事に慣れてしまう事が、悪意ある第三者を近づけやすくしているのではないかと思うこともある。	小P
	子どもが巻き込まれる痛ましい事件が多発し、子ども達に誰に対しても安心して心を開くことを教えられない状況にある。同時に学校が地域に開かれたものであることを求めつつ、防犯上、逆に閉鎖的にならざるを得ない。	小P
	学校の行事等で、父母の間でお互いに挨拶がほとんどない。	小P
	他人に対して、一歩目から近づきたくない、関わりたくないという大人がいて、子ども達も地域住民や保護者とふれる機会が無くなって来る。大人同士の姿勢が問われると思う。	中P
地域の中での挨拶を全体で指導はするが、不審者、日頃からの関わり等を考えると難しい状況がある。	中P	
大人の方が、挨拶することに関して消極的になっている感じがする。	中P	
子どもの状況	少子社会で子どもが少なく、あいさつしてくれる小学生がだんだん少なくなった。	町会
	人の顔を見て、逃げるような素振りのある子どもを見ること。	町会
	夏のある日、道で二人の男の子に出会い「お勉強の帰り」と思わず声をかけた。男の子達は顔を見合わせ、そのまま立ち去った。他人から声をかけられた事に警戒したのか、戸惑った様子だった。最初の声かけが拙かったのか、それとも警戒されてしまったのかと難しさを感じた。	町会
	行事などで、何回か会った事はあるかもしれないが、後日道などで見かけ、小さい子にやたらと声をかけたりすると、子どもが怖がる場合がある。	町会
	子どもや青年達は、私の方から先に声をかけるようにしているが、ペコと頭を下げる程度の挨拶しか出来ない人が多い。	町会
	子ども達は、こちらから声をかけると、ほとんど気持ち良く何か返してくれるが、その親達の方が接し方が難しい。	町会
	学校では挨拶が出来るが、地域では挨拶の出来ない子どもが多い。高学年に多い。	町会

挨拶を数回しても、相手が否らしく思うような態度が見える時。	町会
声をかけても無視された時。	町会
不審者と思われるかもしれない。	町会
防犯対策が進むあまり、一歩間違えれば過保護になり、また、子どもに過剰な人間不信を植えつけるのではないかと心配。	小P

問5	「あいさつ・声がけ・きっかけ作り」の重要性を、主に誰に向けて呼びかけた方がよいと思いますか。
	・家庭 85 (特にどちらに) 青少年10 親55
	・地域 66 (特にどちらに) 地域住民44 地域団体6
	・学校・教育機関 53
	・お店・事業所 21
	・わからない 1
	・その他 1

問6	家庭に限らず地域の子どもたちとの日常的な「あいさつ・声かけ」に関し、貴団体活動として、現在取り組んでいることがありますか。また、他団体が区内において実施している同様の活動を知っていますか。		
	団体として取り組んでいること	ある 33	ない 68
	他団体の活動	知っている 19	知らない 72
	それは具体的にどんなことか（上記で「ある」「知っている」と回答した場合）		
団体としての取り組み	登校、下校、町の行事に子供参加のイベント作りで。		町会
	交通安全週間、行事中等の機会に会員に任せて行っている。		町会
	子どもを中心とした青少年部の活動。夏季行事。		町会
	新入生及び低学年生に声かけをしている。		町会
	町会の行事で子どもが集まるような機会に「あいさつ」をしようといつも呼びかけているが、あまり効果が上がらない。		町会
	地域広報紙のタイトルには「あいさつ～心ふれあう豊かな町づくり」で、互いに郷土意識を持つようにしている。		町会
	登下校の際の子ども達の安全。掲示板を利用して町会の人達に呼びかけている。		町会
	東京大学をクイズで探検。キャンパス内をクイズを解きながら回る。家族、地区対スタッフ、他の家族とのふれあいで「あいさつ・声かけ」の大切さを学ぶ。種々のイベントを通して学ぶ。		町会
	特に「あいさつ・声かけ」として行っている活動ではないが、「わんわんパトロール」を組織化し、あいさつのきっかけを作っている。千駄木小学校では、児童にこの「わんわんパトロール」の存在を積極的に紹介し、出会った際にはあいさつするように指導している。		町会
	毎朝、登園時に園長先生が門の所で、子ども達一人一人の手を取り、目を見て「あいさつ・声かけ」をしている。子ども達は幼稚園への気持ちが高まり、スムーズに一日がスタート出来、挨拶の時には顔を見て行う事の大切さが自然に身に付いて来ている。		幼P
	近隣の方々が、わざわざ幼稚園のリサイクル活動等に協力して、新聞紙や空き缶等を持って来てくれる。感謝の気持ちを込め、また開かれた幼稚園となるよう周囲に住む方々にも声かけを進んでできるようご指導頂いている。		幼P
	「交流」をテーマにした学校行事を行う予定。「交流」というテーマの中の一つとして「あいさつ」を考えて行くつもり。		小P
	毎朝、週番が立ち、8時10分には校長とあいさつする。		小P
	P T Aで作成した「安全パトロールシール」を自転車につけてもらい、登下校時に通学路を回ってもらうようお願いしている。子ども達に声かけをしながら、不審者から子どもを見守る活動を続けている。		小P
	夏休み直前、学区の町内会に防犯のチラシとポスター（P T Aで作成）を配って回った。防犯の枠にとどまらず、子ども達と地域の方々がもっと近い関係になることを望んでいる。		小P
	学校に行った時、また、道端で会った時等、五中生徒に大人から積極的に声をかけるようにP T A活動（委員会、イベント等）の折に保護者に呼びかけている。		中P
学校では生徒中心に「あいさつをしよう」という目標を立て、自然に挨拶ができる雰囲気作りに努力している。親達も学校外でも生徒を見かけたら、声をかけるようにしている。		中P	
個人としての取り組み	団体としてはまだだが、各個人としてやっている。		町会
	子ども達に会えば「声かけ」を心がけている。特に通学路での「おはよう」や「おかえり」等声かけをしているので、少しずつではあるが変化しつつある。		町会
	私個人として、すれ違う時は折りにふれ「おはよう」「おかえりなさい」等子ども達に声をかけている。子どもの方から挨拶してくれることも少なくない。		町会
	林町小学校を中心にP T A、町会、商店会であいさつ週間（10月中旬より）が企画されている。		町会
	各地区（9地区）の青少年対策委員や青少年委員等、しっかり活動していると思う。		町会

他団体の 取り組み	窪町小、一中、大塚小の三校連絡協議会は25年位前から地区対と共に活動している。	町会
	地区対策委員会でも、PTA役員会でも行動を起こしていた。	町会
	文京区立八中が挨拶の励行を推進している。	町会
	現在継続して行っているかは不明だが、地元中学校において、朝の登校時にPTAの協力のもと、校門にてあいさつ運動を実施していた。	町会
	千駄木小学校の区域の方が、朝の犬の散歩の時に「ワンワンパトロール」として、パトロール兼あいさつ運動をしている。	幼P
	中学校PTAで、朝のあいさつ運動に保護者が登校する生徒にあいさつするという活動をしている。	中P

問7	多くの地域の大人が青少年の健やかな成長の芽を見守り、地域全体で青少年健全育成に取り組んでいくため、地域の大人と子どもとの「あいさつ・声かけ」について、具体的にどのような事業・取り組みが必要だと思いますか。	
日常の心かけ	多くの地域の人達が、お互いに声をかけあって行く事が大切だと思う。	町会
	先ず親が家庭内で朝から就寝まで挨拶する事。人間は一人では生きて行けない事を自覚して、近所の人達とも挨拶を交し合っていたら、空き巣などの侵入犯も減る。	町会
	先ず家庭の中での親からの躰が第一歩だと思う。	町会
	具体的な取り組みは難しい。要は大人がその必要性を痛感し、情熱を持って行動することだと思う。上記試行錯誤を楽しみにしている。	町会
	<p>社会の風潮を反映し、信頼感が薄れ、他人に対する警戒心が強い。</p> <p>①学校等の行事に努めて参加する。(顔見知りになること)</p> <p>②大人同士の信頼感、気心の熟知、親近感に努める。</p>	町会
	登下校時に重点的に声をかけるように、地域全体で心がける。	町会
	絶対に必要。日本人は「あいさつ」を大切にす国民だったのに、今はなんだろう。戦後の教育が悪かったと言われているが、地道に時間をかけて、元通りに戻るよう努力していくしかないと思う。	町会
	町会長一年生として、先ずは町内の人々を一人でも多く知りたい為、道で行き逢えばちょっとした挨拶をしたり、町会のあれこれを話したりと、常に呼びかけるよう心がけ、それを始めの一步としている。	町会
	毎日の心かけが大切で、時たまのイベントでは実効はない。長く続けることだと思う。	町会
	地域の子どもの顔を良く知ること、出来れば家族構成など、浅く知っているのが良いと思う。	町会
	難しく考えるのではなく、人との接点の始めなので、あたりまえに声かけすれば良い。	町会
	学校の行き帰りの挨拶。家を出たら近所の方には「行ってまいります」と挨拶する。大人も声をかけてあげる。先ずは家庭から、親自身が先に立って自身を躰る。	町会
	誰とも可能な限り朝は「おはよう」、昼間は「今日は」と挨拶をする事を心がけて、少しでも多くの方に実行して頂きます。	町会
	町会等の各種イベントのその都度、町会員と子供達との顔合せを根気よく続けて行く。(顔なじみになる)大人の挨拶に対する勇氣ある意識改革が必要。	町会
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・生徒に大人の方から積極的に声をかける。 2. 地域の住民に町会役員が積極的に声をかける。 3. 地域を通る人に対しても挨拶する(防犯) (事業所等に勤務する人には、なるべく声をかけ、交流している) 	町会
まず大人同士が、若い人達にお手本となるような「あいさつ・声かけ」をしないと、なかなか子ども達には分からないと思う。	幼P	
とにかく大人の方から声を出して「あいさつ・声かけ」をすることが大事。子ども達は恥ずかしがって、なかなか声を発する事が出来ないように思える。ただ、最近是不審者等の問題もあり、気軽に子ども達に声をかけられない気もする。その為にも、地域が一丸となった防犯対策が必要。	幼P	
警察官や消防の制服を着ている人達からの挨拶や声かけをあまり見たことがない。交番の前に立っている時や、パトロールで自転車回っている時等、是非、声かけをして欲しいと思う。	幼P	
文京区は、他自治体から仕事の為に通って来る大人が非常に多い地域。通常それら多くの大人達(一般企業の方)には「地域の大人」という意識は残念ながらあまりないと思う。これを改善する具体的な考えは思い浮かばないが、青少年が多く接したり、すれ違ったりしている職場(場所)で働く大人達(上記の方々)の意識を少しでも地域に近づける策は無いが。	中P	
各町会の行事で、子どもとの接触を多くする。		町会
	町会としては、子供行事が少なく、お祭りの時に小学校低学年の参加はあるが、高学年5、6年生の参加が近年少なく、中学生、高校生になると全く参加者がいない時があるので、中・高校生が参加しやすい、興味ある企画、事業に始めから参画してもらうような行事をしたい。	町会
	近隣町会等と合同で地域一丸となって、祭典やスポーツ等を通して子ども達にふれあい精神や協働協力精神を植えつけていけるような自然体が必要だと思う。夏祭り等には、子ども達も積極的に参加協力している。	町会

既存事業 の工夫	特別な運動をするのではなく、祭り等の行事を通し、自然なコミュニケーションをとるのが一番だと思う。それは、子どもに対してだけでなく、親とも会話をする、また、行事において、中学生くらいから主催するようなものを提案してもらって、大人と子どもが協力して行うのも良いと思う。	町会
	私達の町会で一番青少年が集まる行事と言えば、第一番は祭礼です。その時は、こんな子供が町内にいたのかと思う位集まります。そんな時を利用して「あいさつ」「声かけ」に取り組むことを実施したい。	町会
	町会等で、子どもが参加しやすいイベントを多く企画することが必要。それらを通して顔馴染になることで、お互いに挨拶しやすい関係が自然に出来上がる。	町会
	当町会では、少子高齢化の時代を踏まえて、子ども達の健やかな成長を目指し、祭礼や文化的な行事（日帰りバス旅行）等を通して、地域と家庭（子ども中心）が一体となってふれあうことを目標としている。「安全・安心の町づくり」を一層町会員にアピールしている。	町会
	青少年に家庭を通じて地域の事業への参加を呼びかけ、地域の大人の顔を覚えてもらい、互いに声をかけ易くする。	町会
	もし子どもがいなかったら、「あいさつ・声かけ」への取り組みをしてることは知らなかったと思う。地域、社会全体へのアピールが不足してるように思う。	幼P
	学校や地域で大きな声で挨拶することを進めて行く。特に地域の大人に対して子どもへの理解と愛情を持って頂けるよう、日頃のふれあい事業を進める。子どもは校外の清掃等、挨拶をしながら貢献（地域へ）し、社会の一員であることを認識させる。	幼P
	幼い頃から顔見知りの場合は「あいさつ・声かけ」も無理なく出来ると思うが、居住地域と通学している学校の地域が違えば、どこの子どもなのか把握しにくく、声をかけることをためらってしまうのが現状。地域の行事に子ども達を参加させ、地域に子ども達を知ってもらうことも必要だと思った。	中P
新しい 取り組み	その主旨のポスター多量配布。	町会
	中学生、高校生が中心になって取り組む地域活動。	町会
	「あいさつ・声かけ」は顔が分かれば自然と出来るようになると思う。特別に「あいさつ・声かけ」を行う活動を実施するのではなく、地域の人々が集う行事を増やすことで、その土壌が出来るのではと思う。子ども達に、そのような環境を与える事業としては、「子ども会」の組織化も有効なのは。現状、町会（地域）を意識出来る場が少ないように思う。	町会
	地域活動（祭礼や夏休みラジオ体操等）に参加した子ども達が青年や大人になった現在も親しく接することが出来、当たり前のように挨拶を行っている。当町会に於いても子供会等を復活させ、地域に根付いた社会環境の一環として挨拶運動等を実施したいと思っている。	町会
	全ての人間関係を構築する上で、先ず基本的な第一歩は「あいさつ・声かけ」にある。「あいさつ・声かけ」の現実的な場面となる場所は学校、家庭、地域にあると思う。学校内では既に「はじめの第一歩」と位置付けて、実行の段階に入っている所も多い。朝起きてから帰るまでの間に、どれだけ家族間で「あいさつ・声かけ」がなされているだろうか。親がそれだけの意識を持って家族間の交流を考えているだろうか。今、学校でも家庭でも外（地域）で知らない人に声をかけられたら、無視するか、場合によっては大声をあげる、こども110番の家に逃げ込めと教える。このギャップに、どう整合性をつけるかが、この問題の一番重要なポイントになると思う。それには、個々別々に取り組んでも中々実効は上がらないと思う。文書の通達だけで終わりとせず、行政が中心となり、教育機関（幼、小、中1、家庭、地区対、町会、老人会、商店会等）が一堂に会し、この主旨を徹底し、協力して一斉に運動を展開する必要があると考える。	地区対
	登・降園時に合わせて、地域の方々に出て来て頂き、子どもと挨拶をしながら見守って頂く「挨拶道路」の取り組みをして頂けると、防犯面からも安心出来る地域になり、子ども達も明るく楽しい朝を迎えられると思う。この取り組みをしている地域は、空き巣や引ったくりの被害も少なく、治安が良いと聞く。是非、町内会等で取り組んで頂きたいと思う。	幼P
	やはり挨拶は小さいうちから自然に身に付けて行くものだと思う。親が毎日挨拶をしている姿を見せて行く事が大切。特に取り組むなら、小学校低学年くらいの子どもの対象で「あいさつ教室」のようなものはどうか。	幼P
	学校内の活動だけでなく、地域の町会等と連携して子どもを育てていく必要があると思う。「交通安全週間」があるように「あいさつ週間」のようなものがあると良い。普段から挨拶をする良いきっかけになるのではないかと。	小P
	子どもは大人を見て育つものだから、先ずは大人の側がそれを意識出来る事が大切。例えば、学校でも親に向けて講演をして頂く等、親への働きかけのチャンスが増えたと有り難い。	小P
	節目節目、他の運動も含めて習慣化するように声をかけること。（春夏秋冬の地域の諸活動）	小P

町会、NPO、PTA、地区対など青少年に関っている団体に、大人から子どもに「あいさつ・声かけ」をする運動週間を設ける等の企画を、行政で行うことも一案だと思う。大人達の意識改革（子どもに自ら近づいて行こうとする大人であらうとする）を促す必要があると思う。

中P

問8	「あいさつ・声がけ・きっかけ作り」に関し、ご意見等ありましたらお聞かせください。	
	家庭に余裕を持たせる。お隣同士のふれあいなどが大事だと思う。	町会
	家庭、学校、地域住民と行政の強い関心が中心。特に親の意識の改革、関心が最重要。	町会
	一日住めば、そこは既に自分の故郷という意識を喚起すること。	町会
	戦争中は隣近所の家の中の部屋に老人がいるかまで熟知していて、救出に協力した事を思うにつけても、昨今の秘密主義で暮らさなければならない事は本当に淋しい。昔のように温かい思いやりをお互いに持ちたい。	町会
	町会の諸行事（バス旅行、お祭り、ラジオ体操、納涼大会等）で、その都度、特に新しく参加した人等に声がけし、少しでも町会活動に関心を持ち、協力してもらえるように努力している。	町会
	この2年間、親子防災宿泊体験キャンプに参加させて頂いたが、大人同士（時に男性の間において）なかなかコミュニケーションが取りにくかったように思われた。男性の意識改革も必要ではないか。	町会
	必要である。当然である。しかし・・・。	町会
	家庭内での親子の会話が大事。子どもは親の行動に敏感。青少年には同等の気持ちで接したい。	町会
	特に「あいさつ」に関しては、親が進んで見本を示すことが大切だと思う。	町会
	大人同士が軽い会釈が出来るように、一人ひとりが心がけるべきだと思っている。会合等で少しでもそのような話が出来れば良いと思っている。	町会
	私は「先にあいさつ・声がけを」と意識している。始めは反応のない人でも、2、3回目にはあいさつするようになる。	町会
	最近、特に人とのつながりが薄れて来ており、もっとコミュニケーションをとりながら、健全な明るい人間関係を持てるよう、気をつけて行きたい。	町会
	地区で色々な事業、イベントなどで行ってるが、子ども・親の参加が少ない。（野球の試合、クラブ活動等に出なければならない。親も一緒に出る）これも一つの青少年の育成だが、地区でのイベントにも参加するのも、社会性を身につけることだと思う。	町会
	向丘地区対でも話し合ったことがあるが、学校では知らない人とは挨拶しないような指導があるという話も出て来て、挨拶し合える輪を、どのように広げて行くかは難しい。	町会
	強制ではなく、自然と自発的に挨拶が出来るような社会にしなければならないと思う。事業を企画する立場にある人が、果たして自分自身で出来ているのか、振り返って見ることも大切なこと。（自分も含めて）	町会
	マンションが増えるばかりで、子供が居るのか居ないのか、どんな家族なのか一向にわからない。挨拶どころではない。	町会
	最近では他人に干渉される事をきらいという人達が増えたようで、隣近所でもなかなか面識が得られない状態であり、如何に対応すべきか苦慮する所である。	町会
	年二回、全国交通安全運動実施しているが、町内の役員が交通整理しているが、親も子供も挨拶がないのが残念です。春、一時間以上交通整理していると、寒い時足ががくがくする。こちらから声をかけている。	町会
	学校帰りの子ども達に声がけしようと思うが、見知らぬ人から声をかけられたら用心するようにとの指導もあり、実行出来ない。	町会
	当団地では、「あいさつ・声がけ・きっかけ作り」に関しては大人達が大変して良いとの意見が多い様です。	町会
	現在、残念な事に、子ども達が巻き込まれる事件が多発しており、故に子ども達も見知らぬ人に対して警戒してしまう。例えば、毎朝家の前で掃除をしている方が、いつも「おはよう」と声をかけて下さる事で、子ども達も警戒心がなくなり、挨拶が出来るようになると思う。地域の皆様の協力で「あいさつ・声がけ」のきっかけ作りになると考える。	幼P

<p>青少年育成プラン（１）にうたっているように、子ども達云々という以前に、やはり大人の側の意識改革が何より先決と考える。挨拶しても返して来ない大人達が何と多いことかと思う。（最近、少し改善されて来たように感じる。）</p>	幼P
<p>マンションでは、管理人の方がとても良く声をかけてくれるので助かっているが、一軒家だとなかなかきっかけがないと思う。</p>	幼P
<p>大人から、挨拶や声かけをして行くのが大切。家庭や教育機関で挨拶の仕方等教えていても、お手本になるのは実践している大人の姿である。先ず、家庭では親、外に出たら地域の人、警察官や顔見知りの方が地域の子どもに身をもって教えるのが大切だと思う。</p>	幼P
<p>他人との関わりを望まない住人、子どもを持たない家庭、永住でなく短期間住んでいるだけの住人等、都市の人間関係の希薄さの現状を良く考え、防犯面での安全性を様々な面から考えて、活動して頂きたい。</p>	小P
<p>子ども達に、この地を故郷だと思ってもらうには、優しい人間関係が必要だと思う。その為には、地域にどんな人がいるか知ることは、とても大切。「あいさつ」は、その原点だと思う。</p>	小P
<p>大人が挨拶をする手本を示さないと、子どもは挨拶するようにならないと思う。大人に向けて「あいさつ・声かけ」の必要性を訴えて行かないといけない。</p>	小P
<p>大人から積極的に声をかけるしか無いと思う。「変なおばさん」と思われても、子ども達にはどんどん声をかけたい。交通安全運動のように、どうしたら広まるのか、みんなで考えたい。</p>	小P
<p>本来なら自然と行われるべき「あいさつ・声かけ・きっかけ作り」が運動として行わなければならないことは残念に思うが、本当に今の時代に必要だと思う。大人同士がしっかり関わり合い、次世代を受け継ぐ子ども達に、大人の姿勢を見せて行く事の意味として、あえて提案されてることに大賛成。</p>	中P
<p>危ない事件が多発する中、「誰にでも明るく接しなさい」と子どもを指導出来ない状況にある。地元企業で働いてる大人の意識改革も視野に入れた活動を期待している。</p>	中P

問9	その他、青少年健全育成全般について、ご意見等ありましたらお聞かせください。	
	中学生位の子供達が、たむろしてゲーム等をしているのを目にする機会があるが、知らない子供には中々声をかけにくい。	町会
	古典的だが、やはり子どもは国の宝。瑠璃も玉も磨けば光る。大人がいかに研ぎ、磨くことが出来るか、子どもの心に対する環境アセスメントが必要。、	町会
	一に親、二に親、三に学校からと思う。	町会
	大人としての立場を良く自覚し、自己自身についての意識を高め青少年に接する。	町会
	大人の目線を、彼等の考え方を理解出来る感性を持つことで押し下げることも必要。	町会
	親同士の会話で、愚痴話、自慢話を良く聞かすが、良く聞いていると、その底には子どもを思いやる心情が流れている事を感じる。そこを出発点として、家庭から地域へコミュニケーションの輪が広がるよう願っている。	町会
	身近なところから、一人一人に対して地道に働きかけて行くことを基本に、少しずつでも続けていけることをやって行けば良いと思う。	町会
	最近、自己中心型の青少年が増えているように感じる。種々の行事を通して、人と人とのふれあいの大切さや、人を思いやる心を少しでも教えて行きたい。明るい希望と豊かな心を育成する事の大切さを痛感している。	町会
	学校、家庭、地域を含めて、色々な意見はあるが、今は個人情報等の問題があって、なかなか声はかけられないし、話も出来ない。	町会
	「はじめの一歩」を早く町会行事として方向づけをしたいと思う。頑張って欲しい。	町会
	青少年よりも、その親の方が問題だと思う。“親の背を見て育つ”という。	町会
	町づくり、社会づくり、とても良い運動をしていたことをこの度知った。これからも続けて貰いたい。	町会
	子供対象の各種行事に参加する児童・生徒は心配ない。何にも関心を示さず、親も参加をうながさないケースをどうするか。ぜひ、対策を講じて欲しい。（問8の返答など）	町会
	青少年を指導するならば、先ず指導する側の意識を変えなければならない。	町会
	青少年健全育成は地域全体の責任で行うことが必要。大人自らが地域活動に積極的に参加し、地域の子ども一人一人を知り、声をかけることが必要。	町会
	子ども達は、大人（親）の日常生活態度を見て育って行くもの。隣近所の方々と挨拶し合い、助け合って行く事だけでも健全育成の一つだと思う。	町会
	地域の皆様とのつながりが出来る事で、地域の防犯につながり、子ども達への安全の確保や育成の役立ちにつながると思う。	幼P
	挨拶を通して、心の和、輪が広がって行くと思う。地域の心が結びつくようにしたい。	幼P
	我が子以外の子ども達に目を向けて、親も友達の親に声がけしよう！	小P
	積極的な取り組みに感謝している。青少年健全育成とは、大人達がいかに子ども達を見守り、育てて行くかを思い悩みながらも感じる事が一番かと思う。子どもを れず大人としてどうあるべきかを常に思っていて欲しいと思う。	中P